

SPOJA

Vol.03

野球が原型のアーバンスポーツ

Baseball5



Baseball5とは?

世界野球ソフトボール連盟(WBSC)が推進する、持続可能な価値を有する新しいアーバンスポーツ。野球がベースだが僅かなスペースとボール1つがあれば、年齢や性別、体格を問わず誰でも楽しめる。また1チーム5人制によるスピーディかつダイナミックなプレー展開も特長。

スポーツの“稼ぐ力”で
地方創生を実現 巻頭インタビュー

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構代表理事

原田宗彦

入会の動機と期待

会員から生の声を聞きました!!

名古屋スポーツコミッション
2022年度下期実施事業 2023年度上期実施事業

スポーツの“稼ぐ力”で 地方創生を実現

スポーツコミッションが持つ可能性とは

近年、長く教育としての「体育」だったスポーツが「稼ぐ」ビジネスとしてのスポーツへ大きく進化を遂げています。国もスポーツによる地方創生を推進する中、地域独自のスポーツによる「まちづくり」を実現し、スポーツで稼げる仕組みを作る司令塔としての役割に期待が高まっているのが地域スポーツコミッションです。スポーツコミッションが行うスポーツを活用したまちづくり事業の可能性について、大阪体育大学学長で一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構代表理事の原田宗彦さんに伺いました。

名古屋スポーツコミッション アドバイザー

原田 宗彦

1954年、大阪府生まれ。1984年、米国ペンシルバニア州立大学博士課程修了。大阪体育大学教授、早稲田大学スポーツ科学学術院教授などを経て2021年より大阪体育大学学長。現在は、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構代表理事、公益社団法人日本バレーボール協会理事、公益社団法人日本バドミントン協会理事を務める他、2020年には名古屋市2026年アジア大会レガシービジョン策定委員会座長として「名古屋ビジョン」を策定。著書は「スポーツ地域マネジメント」(学芸出版)、「実践スポーツツーリズム」(学芸出版)他多数。2021年より名古屋スポーツコミッションのアドバイザーを務める。

税金に頼らない公民連携の仕組みで スポーツによる地方創生を

日本におけるスポーツは、教育の世界で「体育」として大きな役割を果たしてきました。特に青少年の教育にとって「体育」は、健康な体をつくり、フェアプレーの精神を学び、礼儀作法を学ぶとても良い機会です。しかし今、「体育」がその役割を続けながら同時に産業化、商業化、あるいはビジネス化した「スポーツ」へと大きく変革を遂げています。体育館はアリーナへ。陸上競技場がスタジアムに変わり、大きなイベントを開催することが可能となりました。メディアの価値が増したことで放送権料が大幅に上がり、付随してスポーツウエアやシューズもブランドライセンス化して価値も向上。協賛するスポンサー企業が増えることで巨大なビジネスに成長してきたのです。

現代のスポーツには「稼ぐ力」が内包されていて、この力を活用し、税金に頼らない公民連携のシステムを構築することでスポーツによる地方創生が可能になります。分かりやす

い例で言うとプロスポーツです。日本、特に地方は少子化と高齢化で衰退しつつある中、群馬県太田市では企業版ふるさと納税を使って「アリーナを核としたまちづくり推進事業」を行い、プロバスケットボールチームの本拠地になりました。8月にはバスケットボール男子日本代表国際強化試合が開催され、県内外から4000人以上が来場して大いに盛り上がりました。来場者は太田市近辺に泊まって、食べて飲んで、お土産を買って帰ります。スポーツで地域が活性化する連鎖が各地で起きているのです。

地域の隠れた資源を発掘、観光商品化 どこでもスポーツツーリズムはできる

高齢化が著しく人口も少なく、アリーナやプロスポーツは無理という自治体でも、そこに素晴らしい自然の資源があれば、それを活用してアウトドア・スポーツツーリズムが可能になり、トレイルランのイベントを作ることもできるでしょう。あるいは古い神社仏閣があれば、武道ツーリズムを誘致する。地域が知恵を絞り、

自分たちが持っている隠れた資源を観光商品化し、人を集めてお金を落としてもらう仕掛けが必要です。スポーツプラスアルファで、スポーツと何かを組み合わせることによってどの地域でもスポーツツーリズムはできると私は思っています。

そこで重要となってくるのがスポーツコミッションの役割です。スポーツコミッションには「インナー政策」と呼ばれる地域スポーツ事業による収入と、「アウトター政策」と呼ばれる地域外からのビジターがもたらす収入によって、補助金に頼らずスポーツによる地域活性化を担う役割があります。理想はアウトター政策でイベントや



日本最大のスポーツ・健康まちづくり総合展示会「SPORTEC 2023」に名古屋スポーツコミッションは出展



大会を誘致して外から人を呼び、稼いだお金でインナーを動かす。インナーというのは、地域にいる人たちの健康やスポーツ参加率、もっと言うとウェルビーイング(身体的、精神的、社会的に満たされた状態)を高める施策を同時展開すること。それをリードするのがスポーツコミッションの役割です。

2026年のアジア・アジアパラ競技大会開催後、皆さんのスポーツへの関心が続くよう、さまざまなことに取り組みなくてはなりません。施設の管理運営、指定管理者をやるのも一つ。名古屋ウィメンズマラソン並みの大きなイベントを作る方法もあります。肝心なのはアジア・アジアパラ競技大会の前後に来た人たちにも楽しんでもらうこと。スポーツ体験プログラムを提供するのもいい。アジアの富裕層もたくさん来日するので、ラグジュアリー・マーケティングも一つの方法で

しょう。名古屋は観光都市のイメージを作り上げていく努力も必要ですし、スポーツで名古屋のブランド力を高めていくことがスポーツコミッションの仕事の一つだと思います。

スポーツコミッションに参加すれば 行政と繋がり、企業価値を向上できる

名古屋スポーツコミッションの会員になることのメリットはいろいろありますが、やはり行政と繋がっていることが最大の強みです。スポーツコミッションは半官半民、公的な機関なので協賛することで企業の価値も上がります。ただコミッションがやらなければいけないのは、企業に対してどうメリットを還元していくか。例えばコミッションが中心となってCO2削減やESG経営に向けたプログラムを作り、企業側がそのプログラムに協賛していることをアピールできるといったような仕組みづくりが求められてい

ます。アプリを作ってポイント制にして、参加者が運動したりイベントに参加したりして貯めたポイントで企業の景品がもらえたり、もっといいのはドラゴンズやグランパスの試合をスペシャルシートで見ることができるといった特別な企画を仕立てる。スポーツコミッションだからこそできるアイデア、事業を創造していく必要があります。名古屋スポーツコミッションは政令市にあるコミッションなので、今後かなり大きなこと、話題性があることができるはず。同じ政令市のさいたまスポーツコミッションはアリーナを作る計画がありますし、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」という大きなイベントも行っています。名古屋スポーツコミッションも名古屋市と一体となって民間のパワーで事業規模を拡大していくことが重要だと思います。

Baseball5 スポーツSDGsとベースボール5



試合後の日本代表、チャイニーズ・タイペイ代表、中京大学、名城大学の選手たち

スポーツの力でSDGsを達成しようというムーブメント、スポーツSDGsの動きが高まる中、SDGsの推進に寄与するスポーツとして注目されているのがBaseball5です。性別に関係なく楽しめる「ジェンダー平等」の要素を持ち、地域の賑わいも創出するスポーツであることから、各国で急速に楽しめるようになってきました。Baseball5の認知拡大と普及に関わるテレビ愛知の神藤耕治さんに、Baseball5の可能性を聞きました。

ゴムボール1個と場所さえあれば、誰でもできる新アーバンスポーツ

テレビ愛知株式会社東京支社 神藤耕治

Baseball5はいわゆる手打ち野球に近いスポーツで、設備や道具が不足している地域でも野球のコンセプトを理解できるスポーツとして、キューバでは盛んに遊ばれています。

弊社がBaseball5をサポートする理由は、頑張っている選手たちを応援したいという気持ちや競技を普及させたい気持ちもありますが、記録を残すという意味もあります。スポーツが成熟していくには通常20年～30年はかかるものです。ではこのスポーツがどう発展していったのか。それを記録する

るのはメディアの役割であるという思いでBaseball5に取り組んでいます。

Baseball5はSDGsにも親和性が高く、性別や年齢に垣根なく、しかも接触が少ないスポーツなので筋力や体格は関係ありません。非常にフェアな競技です。新しいアーバンスポーツと言われていて、6月4日にオアシス21(名古屋市東区)で日本代表とチャイニーズ・タイペイ代表の国際試合「アジアントロフィー2023」や、Baseball5体験会を行ったのは、街を活性化し、賑わいを創出する意味もありました。

弊社はスポーツを通じて社会の課題を解決するスポーツSDGsに取り組んでいます。SDGsというどうしても堅苦しく、身近なものではないように感じますが、スポーツの力を利用することで人々を巻き込み、波及していく、すごいパワーを持っています。

名古屋を持続可能な街にするためには、今後さまざまな課題解決が必要です。そこにスポーツの力を利用しない手はありません。それぞれのスポーツ競技がいろいろな社会課題に個別に取り組むのではなく、まとまって取り組む、そのまとめ役がコミッションです。これまで同じ競技の縦連携、サッカーで言うとプロチーム、大学、高校、中学、小学校といった連携はありましたが、横の連携はなかなかありません。それを可能にするのが名古屋スポーツコミッションです。

2026年のアジア・アジアパラ競技大会は選手ファーストの大会にする。大きな大会をやって終わりではなく、持続可能な街をつくるための仕掛けづくりのきっかけになってほしいと思います。名古屋が平等で夢のある街になるような、そして子どもたちに夢を与えられる機会にしたいですね。



Baseball5とは

2017年に世界野球ソフトボール連盟により野球・ソフトボール振興の一環として発表されたアーバンスポーツ。1チーム5人制(公式国際大会では男女混合)。フィールドは18メートル×18メートルで、ゴムボールさえあればどこでも楽しめる。2026年ダカール・ユースオリンピックの公式種目にも追加された。日本代表は世界ランキング4位。※2023年7月現在

名古屋スポーツコミッションの会員に聞きました!

人を惹きつける力、熱中させる力のあるスポーツを活かし、名古屋の明るい未来を描く「名古屋スポーツコミッション」。ここでは会員の4者にコミッション入会の動機や期待することなどをお聞きました。



名古屋グランパス

◆入会の動機

名古屋グランパスではホームタウンの名古屋市の皆さまとともに、様々な活動で連携してまいりました。名古屋スポーツコミッションが立ち上がる際、関係する自治体やスポーツチーム、企業の皆さんとより一層連携を深めることで、名古屋のスポーツを盛り上げられると感じたからです。

◆加入してメリットを感じる点

ホームタウンで社会連携の活動を行っていた中で、これまでではつながらなかった皆様と、新たな関係を構築できる場となっています。

◆要望、期待すること

部活動の地域移行をはじめ、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しつつあります。数多くのスポーツのリソースを抱える名古屋において、他の地域にはない名古屋らしい新たな活動を一緒に生み出していきたいと考えております。名古屋のスポーツと一緒に盛り上げ、発展させていく原動力として、クラブをご活用いただければ幸いです。



一般社団法人 コンプラス×スポーツ

◆入会の動機

当組織のミッション&ビジョンである「スポーツ・アスリートの羅針盤として、スポーツを通じた街づくりとアスリートの価値向上を目的とする」。具体的には、下記の目的達成に向けた共創パートナーとしての期待感をもって入会に至りました。

●持続可能な暮らしを創造した街づくり(スポーツシティ構想「ネットワーク型スポーツシュール」)。既存のスポーツ施設(公共施設・大学・廃校活用)・商店街・ホテル旅館・飲食店・企業所有施設などをネットワーク化することで、スポーツの「する場」「学ぶ場」を確保しつつ、企業・大学・団体等が持つ最新の知見や技術を活用したサービスを提供していく仕組みのことで、「街のシンボルとなるスポーツチーム」を育てることも地域の活性化を後押しします。

●アスリート・ハンディキャップアスリート・セカンドキャリア支援。

●「大学スポーツ」のサポート(アスレチックデパートメントの設置)。

●各競技の世界大会(オリパラ・デフリンピック、ワールドカップ、アジア・アジアパラ競技大会(2026年愛知・名古屋)への地元選手の輩出・サポート)。

◆加入してメリットを感じる点

他府県で設立・運営されているスポーツコミッションとは一線を画した、出資母体の組織としての強みを活かしながら行政の枠組みを取り払って様々なプロジェクトを推進する姿勢に期待しています。スポーツは工夫次第で収益性と公共性を両立し、行政・スポーツ関係者・地域住民が相互に果実を得る「三方よし」の関係が構築できる可能性を秘めていると考えています。

◆要望、期待すること

名古屋スポーツコミッションの目的達成に向け、プレずに続けてほしいです。

新規加入会員

<正会員>

- ファイティングイーグルス名古屋
- 株式会社 SScorporation
- テレビ愛知株式会社
- BLUE BEES 株式会社

<準会員>

- 株式会社 ネオバプリシティ
- 株式会社 ワントゥワン

<賛助会員>

- 株式会社 アライブ
- KSG クリエイト株式会社
- 株式会社 コミュニティ ネットワークセンター
- 東邦不動産株式会社 邦和みさと スポーツ&カルチャー

- 近藤産興株式会社
- 株式会社 トラスト
- 公益社団法人 名古屋青年会議所
- 中北薬品株式会社
- 株式会社 メガシंक

名城大学

名城大学

◆入会の動機

名城大学社会連携センターでは、名城大学と社会の資源をつなぐことをミッションに、多様な分野での連携事業の創出を目指しています。コミッションに入会することにより、自治体や地元企業とともに、産官学でのスポーツ振興、地域課題の解決等に取り組むことができると考えました。

◆加入してメリットを感じる点

会員同士での連携事業で学生がイベントを企画・運営、コミッションのスポーツイベントで学生が運営に携わるなど、コミッションでのつながりによって、学生に実践的な学びの機会をいただいています。

◆要望、期待すること

産官学で様々な連携事業を企画することで、単独では成し遂げられない取り組みが実行できます。コミッションでのつながりによって、この地域の産官学が連携した取り組みがより活発になることにより、スポーツ振興のみならず、地域課題の解決・地域経済の活性化につながることを期待しています。



公益財団法人 名古屋市教育スポーツ協会 (名古屋市体育協会)

◆入会の動機

当協会の強みとして、市内のアマチュアスポーツ競技団体を統括していること、「名古屋トップ・スポーツチーム連絡協議会(でらスポ名古屋)」の事務局機能を有していること、さらには日本ガイシスポーツプラザをはじめとする市内スポーツ施設を管理運営しており、大規模大会やイベント開催への協力実績が多数あることが挙げられます。

それらは、名古屋スポーツコミッションがその機能として掲げる「大会・イベント誘致と開催支援」「スポーツツーリズム」「地域活動の活性化」「産業の創出」を実現するための一助になるとの思いがあります。

そのような思いから、名古屋スポーツコミッションや他の会員の皆様と共に、名古屋市のスポーツ界のさらなる発展に貢献したいと考え、入会に至りました。

◆加入してメリットを感じる点

今までつながりのなかった団体や企業の皆様と連携・協力をさせていただくことにより、今までにはない新たな取り組みが創出される可能性があることにメリットを感じています。

◆要望、期待すること

まずは、2026年のアジア・アジアパラ競技大会の成功に向け、名古屋スポーツコミッションが果たす役割は大きいと考えます。様々な役割に対し、会員が一丸となって進んでいくことができるよう、しっかりと舵取り役を担っていただければと思います。

さらには、アジア・アジアパラ競技大会後も見据え、名古屋市がスポーツ都市として益々発展できるよう、長期的な視野に立った取り組みも進めていただきたいと思います。

人を惹きつけ、熱中させるスポーツを活かし、名古屋の明るい未来を描きます。

2022年度下期実施事業

武道ツーリズムモニターツアー



2023年2月4日(土)、5日(日)

海外でも愛好者が多い武道は新たな誘客を期待できることから、名古屋の特色を活かした、武道ツーリズムモニターツアーを実施しました。中でも弓道は、尾張徳川家が推奨したという歴史的なゆかりがあり、愛知県は弓道人口や弓道施設の数が多い地域です。

1日目は熱田神宮本殿にて正式参拝の作法「御垣内参拝」を学び、弓道や居合道、空手を体験。名古屋城ではおもてなし武将隊のショーや本丸御殿を見学しました。2日目は徳川美術館庭園内の茶室「餘芳軒」にて聞香の体験や、名古屋市中区大須の三輪神社で尾張藩矢場跡を見学。参加者らによる活発な意見交換も行なわれました。

2022年度第5回会員交流会



2023年2月14日(火)

邦和みなどスポーツ&カルチャーにて2022年度第5回会員交流会を開催しました。東京2020オリンピックで採用されたスポーツライミングの各種目「スピード」「ボルダリング」「リード」を紹介し、その後、地元愛知県出身で日本代表経験のある倉菜々子選手、石井未来選手を招いて、インタビューとトークセッションを行いました。ボルダリングジムでは両選手によるデモンストレーションの見学や、会員の皆様にもボルダリング体験をしていただきました。

2023年度上期実施事業

2023年度第1回会員交流会

2023年4月25日(火)

コミュファeSports Stadium NAGOYAにて、今年度の第1回会員交流会を開催しました。今回はアジア競技大会正式競技「eスポーツ」をテーマとし、53名が参加。愛知eスポーツ連合事務局長の塩田直道氏より、愛知、名古屋におけるeスポーツの近況や日本のeスポーツ市場についてお話しいただきました。また、名古屋市内にあるeスポーツ施設やテクノスポーツの紹介のほか、ゲーミング専用機材をふんだんに用いたeスポーツ体験会を実施。会員の皆様にスポーツの新次元を体感していただきました。



SPORTEC 2023



2023年8月2日(水)～4日(金)

東京ビッグサイトで開催された日本最大のスポーツ・健康まちづくり総合展「SPORTEC 2023」に、今年も3日間にわたりブースを出展しました。スポーツによる地方創生、健康インフラの創造をテーマにした同イベントの今年の来場者数は39,956人。名古屋スポーツコミッションとして様々な活動内容を発信したほか、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会の告知・宣伝を行いました。

アスリートDAY 名古屋



2023年2月18日(土)

みなどアクルスUBフットサル場において、トップアスリート指導によるイベント「アスリートDAY 名古屋」を開催しました。名古屋市内の小・中学生を対象に大同特殊鋼ハンドボール部「フェニックス」の元選手2名、日本代表経験もある地引貴志氏(元フェニックス監督)と浦田悠司氏の指導による、体力づくりやアスリートの特別講座など、スポーツで使えるテクニックを参加者19名が楽しく学びました。

Fリーグ U-18フットサルプレ大会 in名古屋

2023年2月25日(土)、26日(日)

Fリーグ加盟チーム、U-18の6チームが全国より名古屋へ集まり、パロマ瑞穂アリーナでフットサル大会を開催しました。各チームとも1日目は1次ラウンド2試合、2日目は決勝ラウンド1試合と、2日間で合計3試合を戦いました。各選手の個人技や、チームの一体感など、随所に見せる高いパフォーマンスへ、訪れた観客から惜しめない拍手が送られました。今回はプレ大会としての開催でしたが、2023年度は第1回大会を予定しています。

主催／一般社団法人日本フットサルトップリーグ
主管／名古屋オーシャンズ
共催／名古屋スポーツコミッション



©NAGOYA OCEANES

Baseball5 Asian Trophy 2023

2023年6月4日(日)



▶日本代表選手兼監督 六角彰子(ろっかく あやこ)氏 ©テレビ愛知

オアシス21を会場に、野球を原型として考案されたアーバンスポーツ「ベースボール5」のイベントを開催しました。開会セレモニーでは一般財団法人 全日本野球協会の山中正竹会長の挨拶の後、名古屋スポーツコミッションの杉野みどり会長による始式で国際試合がスタート。対戦相手には、「WBSC ASIA Baseball5アジアカップ2022」チャンピオンのチャイニーズ・タイペイ代表(世界ランキング2位)を招き、「第1回 WBSC Baseball5ワールドカップ」準優勝の日本代表(同4位)との間で接戦が繰り広げられました。また中京大学と名城大学が学生によるチームを編成し、東海地区初の大学対抗戦も実施。そのほかにも、選手兼監督の六角彰子氏をはじめとする日本代表選手の指導による体験会が行われ、多くの方がベースボール5を楽しみました。

主催／一般財団法人 全日本野球協会、テレビ愛知株式会社
共催／名古屋スポーツコミッション
協力／一般社団法人 日本スポーツツーリズム推進機構

今後の事業

第2回西尾レントール名古屋ジュニアサッカー大会

日時 2023年10月7日(土)、8日(日)
場所 テラスポ鶴舞

アーバンスポーツエキシビジョン

日時 2023年12月2日(土)
場所 オアシス21

第4回世界弓道大会・国際弓道セミナー

日時 2024年2月26日(月)～3月4日(月)
場所 日本ガイシホール

U-18フットサル大会 in名古屋

日時 2024年3月22日(金)～24日(日)
場所 パロマ瑞穂アリーナ、名古屋市東スポーツセンター

名古屋スポーツコミッション会員 令和5年9月30日現在

正会員



名古屋商工会議所



中日ドラゴンズ



名古屋オーシャンズ



名古屋グランパス



名古屋ダイヤモンドフィッシュ



ファイティングイーグルス名古屋



大同特殊鋼株式会社



中京大学



中京大学附属
中京高等学校



学校法人名城大学



株式会社SScorporation



一般社団法人 コンプラススポーツ

一生涯のパートナー



第一生命保険株式会社



中京テレビ放送株式会社



テレビ愛知株式会社



BLUE BEES 株式会社



ランドマーク エンターテインメント株式会社



公益財団法人 名古屋市教育スポーツ協会(名古屋市体育協会)

準会員



西尾レントオール株式会社



株式会社日本旅行



株式会社 ネオパブリシティ



株式会社ワントゥワン

賛助会員



公益財団法人 名古屋観光コンベンションビューロー



株式会社アライブ



一般社団法人 愛知eスポーツ連合



一般社団法人 愛知県ラグビーフットボール協会



KSG クリエイト株式会社



コーユーレンティア株式会社



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 中部日本地区統括部



株式会社 コミュニティ ネットワークセンター



株式会社コングレ 中部支社



近藤産興株式会社



株式会社ジェイアール東日本企画 中部支社



株式会社JPN



株式会社スマートノート



中京綜合警備保障株式会社
中京綜合警備保障株式会社

中部経済新聞社

株式会社 中部経済新聞社



東邦不動産株式会社 邦和みなと スポーツ&カルチャー



株式会社トラスト



中北薬品株式会社

中北薬品株式会社



社会福祉法人名古屋総合リハビリテーション事業団



公益社団法人 名古屋青年会議所



花文貨物装飾株式会社



ハマダスポーツ企画株式会社



ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社



株式会社 マイナビ



株式会社 メイプルファイブプラス



株式会社メガシンク